



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ

文部科学記者会

科学記者会

御中

令和2年10月20日

岡山大学

内閣府「国立大学イノベーション創出環境強化事業」に採択 イノベーションエコシステムの構築を加速

本学は10月19日、内閣府の令和2年度「国立大学イノベーション創出環境強化事業」の重点支援類型③^(注)において、順位1位で採択されました。

今回の採択を受けて本学では、計画している取組を「ミッション」として着実に進めるとともに、大学の経営基盤の強化を図ります。

また、これまでの取組による学術研究拠点・社会実装拠点の形成を更に強化促進し、より充実したイノベーションエコシステムを構築するとともに、「岡山から世界に新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学」として、さまざまなステークホルダーらとともに協働し、社会の課題解決と新たな価値の提供を担うことのできる研究大学として活動を強化していきます。どうぞ今後の本学の活動にご注目ください。

■概要

本事業は、国立大学の外部資金獲得実績などに応じたインセンティブとなる資金を配分することで、国立大学における民間企業との共同研究における適切な間接経費の確保や寄附金等の多様な民間資金獲得を推進し、イノベーションの創出に必要な財源確保を進め、大学の経営基盤の強化を促すことを目的として公募された事業です。

本学はこれまでの制度改革や民間資金獲得実績などを基に、今後、イノベーション創出を連続的に生み出すイノベーションエコシステムの環境整備を加速するとともに、本学自身がこれまで気がつかなかった大学の価値を収益に転換する取組などを実施する計画を策定。その結果、本事業の採択に至り、本年度は5億円の交付金が配分される予定です。

■主要取組の概要

本事業の採択を受け、本学ではイノベーションエコシステム構築に向けた4つの計画方針の着眼点を置き、それに基づいたさまざまな取組を実施する予定です(図1)。

1. マネジメントの強化と高度専門人材の充実

取組例：新組織「イノベーション・マネージメント・コア (IMaC)」を創設

従来の組織を統合し、イノベーションの創出・深化のため、大学、企業、自治体、市民の境界線を越えた行動や新たな関係性を作る場を担う組織として、「イノベーション・マネージメント・コア (IMaC: Innovation Management Core)」を創設します。

既存の研究推進機構とオープンイノベーション機構の機能を統合することで効率化と対外的なわかりやすさなどを向上させます。また、コロナ禍において、その役割を発揮したリスクマネジメントの機能とノウハウを活かし、イノベーション達成のための全体最適・継続的改善に力点を置いた「価値創造・統合リスクマネジメント (ERM) 部門」を設置し、大学の経営支援の強化を図ります。



PRESS RELEASE

今後の計画方針の主眼点

- ①マネジメントの強化と高度専門人材の充実
- ②教育研究の価値や既存ネットワークや研究基盤プラットフォームを「収益の価値」に転換
- ③ビジネスに直結している医療系活動を強化した「収益の増強」を推進
- ④出遅れているスタートアップやベンチャーとの協働活動の「流れ」をつくり「収益の芽」を育てる

計画方針に基づいた取組

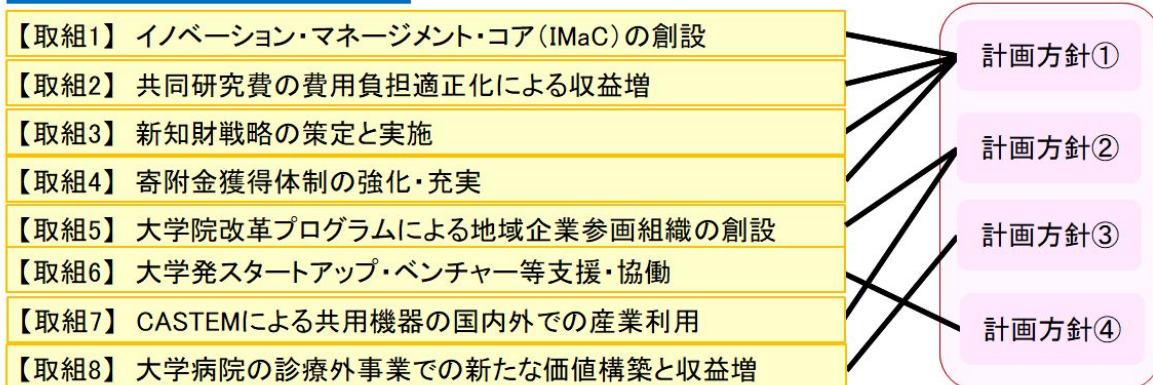


図 1. 今後の計画方針の主眼点とそれに基づいた取組

2. 教育研究の価値や既存ネットワークや研究基盤プラットフォームを「収益の価値」に転換

取組例：遠隔総合物質解析システムの構築による共用機器の産業利用推進

～「はやぶさ」/「はやぶさ2」から世界の産業利用拡大へ～

本学惑星物質研究所（鳥取県三朝町）において、探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワから持ち帰った試料の分析を行った「地球惑星物質総合解析システム（CASTEM：Comprehensive Analytical System for Terrestrial and Extraterrestrial Materials）」の機能を、さらに高度化し、かつ産業利用することで収益化を図ります。

CASTEM を、国内外の企業が活用できるシステムに強化することで、24 時間、遠隔操作で、もちろん英語対応可能とすることで、世界のどこからでもスムーズに利用できる新たな総合解析システムとして運用します。これまで教育研究に限られていた機構（価値）を産業分野に活かすことで教育研究の質向上を図るとともに、外部資金獲得の重要な仕組みへと転換を図ります。

3. ビジネスに直結している医療系活動を強化した「収益の増強」を推進

取組例：大学病院の診療外事業での新たな価値構築と収益増

大学の財務として大きな柱である病院の外部資金獲得の強化促進を図るため、“守りではなく攻めの強気の施策”を実施。特に診療報酬に依存することはコロナ禍において経営の困難さを表しました。岡山大学病院では、これまでにバイオバンクや企業連携活動などの診療外事業を強化してきましたが、今回の事業採択を受けて、診療・研究設備を企業とのオープンイノベーションを強化促進し、ニーズに応じた新しい価値・ビジネスをスピード感をもって実行していきます。

また、オープンイノベーションラボの設置や病院内異分野融合イノベーションエコシステムの形成を強化促進します。また「岡山大学病院サポーター」としての「クラブ 150」創設によ



PRESS RELEASE

るクラブメンバーへの高度で優しい医療と付加価値サービスの提供などを予定しています。

4. 出遅れているスタートアップやベンチャーとの協働活動の「流れ」をつくり「収益の芽」を育てる

取組例：大学発スタートアップ・ベンチャー等支援・協働

新たなイノベーションやサービスを生み出すスタートアップ・ベンチャーとの協働を強化し、これらを通じて本学の価値をさらに高めます。都市部と比較して、スタートアップ・ベンチャーの取組が不十分である点も考慮し、本事業を加速材料とします。具体的には事業スペースの優遇貸付や手厚いサポート、大学のノウハウとの協働など、ノウハウや人手不足に陥りやすいスタートアップ・ベンチャーの活動を支援します。

また、地域での活動とも密に連携を開始し、スタートアップやベンチャーとの協働活動の「流れ」をつくり、都市部、特にスタートアップ推進都市協議会や内閣府が選定したスタートアップ・エコシステム拠点都市の推進拠点都市などに並ぶ活動を目指した取り組みを精力的に進めていきます。

・ 語句説明

注：重点支援類型

各国立大学法人の機能強化の方向性に応じた取組をきめ細かく支援するなどのために、平成28年度に3つの枠組みが設けられています。

重点支援①は、「地域貢献型」とも呼ばれ、主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学法人です。55大学あります。

重点支援②は、「専門分野型」とも呼ばれ、主として、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で、地域というより世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学法人です。15大学あります。

重点支援③は、「世界トップ型」とも呼ばれ、主として、卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に卓越した教育研究、社会実装を推進する取組を中核とする国立大学法人です。岡山大学を含め、北海道大学、東北大学、筑波大学、千葉大学、東京大学、東京農工大学、東京工業大学、一橋大学、金沢大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、広島大学、九州大学の16大学があります。

■ 参 考

内閣府ホームページ「令和2年度国立大学イノベーション創出環境強化事業審査結果」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/daigaku/jigyoku2.html>



岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



<お問い合わせ>

岡山大学 研究協力部 産学連携課

課長 恒國 昭二

(電話番号) 086-251-7756

(FAX番号) 086-251-7114